豊川小だより

11月号

ホームページ
QRコード

令和8年10月30日
北区立豊川小学校
校長　中村　順子

食を通して育む心

～11月はふれあい月間です～

校長　中村　順子

9月からリノベーションされた校舎での教育活動が始まったことは、これまでもお知らせしてきましたが、新しい校舎での生活にもすぐに慣れた子どもたちの適応力には感心するばかりです。長らくお世話になった仮設校舎の解体も進み、今後はいよいよ校庭の整備に入っていきます。仮設校舎がなくなったことで、屋上に掲示してある創立150周年のスローガン「つなごう想いを　輝く未来へ」が、ようやくお目見えとなりました。記念式典からあっという間に1年が経ちましたが、スローガンが見られるようになったことで、新たな時代へ進むために、改めて気を引き締めていきたいという思いをもちました。

＊



その一方で、給食室のリノベーション工事が9月から行われていましたが、こちらもようやく完了しました。仕出し弁当対応期間中には、新たなアレルギー対応や毎日の箸の用意など、保護者の皆様にもお手数をおかけしましたが、本来の調理業務とは異なる業務にもかかわらず、丁寧に対応してくれた本校の調理スタッフの努力もあり、無事に2か月を終えることができました。校長としても安堵しています。



9月半ばごろからは、子どもたちから給食の再開を待ち遠しく思う声が聞こえてきました。そこで、栄養士が「再開後の給食リクエスト」のアンケートを取ったところ、本当に大勢の子どもたちが投票に参加しました。結果は11月からの献立に生かしていく予定ですので、子どもたちには楽しみにしていてもらいたいと思います。

＊

とはいえ、給食では好きなものだけを食べられるわけではありません。アレルギー食材は別ですが、苦手だと感じている食材に触れることができる貴重な機会でもあります。その中でも本校では、牛乳が苦手である児童が若干多いという印象があります。食べ物の好みは人それぞれですが、「飲めない」「いやだ」「無理！」と簡単に答える様子も見られます。

そこで、牛乳が苦手な児童に「牛乳は何からできているのか知っていますか」と私から直接聞いてみました。児童からはもちろん「牛の乳」と返ってきたのですが、さらに「では、牛の乳は何からできているのかな」と聞いてみたところ、低学年は「水？」、高学年は「たんぱく質？」との答えが返ってきました。牛乳、つまり生乳（せいにゅう）は、母牛の大切な血液からできているということは、誰も想像かつかなかったようでした。

本来なら、自分の子ども、すなわち子牛を育てるための生乳を人間がいただいているということを、子どもたちは考えたこともなかったのだと思います。生乳という命を育むものを、人間である私たちが分けてもらっていることを知るだけでも、牛乳のもつ力を感じ、命をつないでいるものをいただいていることに感謝する気持ちを抱くことができると思っています。子どもたちには、そのような意識をもち、牛乳を始めとする食材に思いを馳せながら食事をしてもらえたらうれしいです。

＊

11月はふれあい月間です。相手の気持ちを考えることができる優しさを、豊川小の子どもたちはもっています。一方で、「いやだ」「やりたくない」「嫌い」という言葉を耳にすることもあります。

給食では、様々な食材に触れ、新しい味や食べ物のよさを知る機会があります。そうした経験を重ねることが、自分とは違う考えや感じ方にも目を向け、相手を理解しようとする心につながっていくと考えています。

何ごとにもすぐに心を閉ざすのではなく、様々なことを受け入れようとする心の広さを育んでいくことができるよう、給食やふれあい月間を通して、これからも子どもたちへの語りかけを続けてまいります。